

ミャンマーの教育格差と、 ノンフォーマル教育 ～僧院学校と、 Community School

ADYF 9期
佐々木貴俊
斎藤舞子

構成

- 問題意識
- 背景調査～公立教育
- 背景調査～ノンフォーマル教育
- リサーチテーマ
- 現地訪問
- 考察
- 今後の課題
- 参考文献

1. 問題意識

- ミャンマーの教育水準：
東南アジアでも下位に属する

教育指数 ^① (国際連合・2007年・指数)		生徒の学習到達調査 ^② (OECD・2009年・指数)		高等教育就学率 ^③ (国際連合・2011年・%)		OECD諸国への海外留学生数 ^④ (OECD・2010年・人)	
日本	0.95	中国(上海)	556	日本	58.6	中国	534,179
シンガポール	0.91	シンガポール	526	タイ	45.0	インド	204,514
タイ	0.89	日本	520	マレーシア	36.5	マレーシア	49,094
フィリピン	0.89	タイ	421	フィリピン	28.7	ベトナム	45,038
中国	0.85	インドネシア	402	中国	24.5	日本	41,349
マレーシア	0.85	中国	n/a	インドネシア	23.5	インドネシア	26,853
インドネシア	0.84	マレーシア	n/a	インド	13.5	タイ	24,725
ベトナム	0.81	ベトナム	n/a	ミャンマー	10.7	シンガポール	19,164
ミャンマー	0.79	インド	n/a	ベトナム	9.7	バングラデシュ	18,984
インド	0.64	ミャンマー	n/a	バングラデシュ	7.9	フィリピン	14,683
バングラデシュ	0.53	バングラデシュ	n/a	シンガポール	n/a	ミャンマー	3,258
		フィリピン	n/a				

日本総研 <https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=22275>

1. 問題意識

- ミャンマーの教育水準：
東南アジアでも下位に属する
- 政治的・経済的に注目が集まる現在、
同国が発展するのに最も必要なのは、
教育ではないか。

1. テーマ

- ミャンマー公的教育の論点
～「アクセス」と「質」
- <「アクセス」と「質」の関係>
- アクセスあってこそその質
 - 質への投資がアクセスを最大化しうる

(参考：
<http://inne.org/img/GCEdocuments/A%20quality%20education%20for%20all%20.GCE%20briefing%20paper.pdf>)

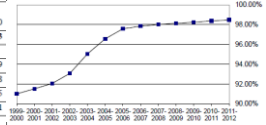
2. 背景調査～公立教育

- ミャンマーの公立学校について
- 5年→4年→2年
- 初等教育（5年）は義務教育
- 初等教育の就学率：高い

（出典：「ミャンマーと日本における学校教育と教員養成に関する比較研究」ヌヌウェイ）

2. 背景調査

Sr. No.	School, Teacher, Student	1988	2011-12	Increase %
1	Basic education schools			
	High schools	722	2395	231.7
	Middle schools	1696	3163	87.0
	Post-Primary schools	0	6761	
	Primary schools	31329	28968	14.0
	Total	35747	41287	22.3
2	Teachers			
	Senior teacher	11838	26612	124.9
	Junior teacher	44994	67398	49.8
	Primary school head teacher	116950	184170	57.5
	Total	178772	276180	60.1
3	Students			
	High school level	241355	672394	178.6
	Middle school level	1094844	2312249	113.0
	Primary school level	3903679	5195952	33.1
	Total	6239878	8206995	56.5



The intake rates of students aged 5+ in Grade 1

出典：Education for All (2012)

2. 背景調査

- 公立学校の問題点①
 - 中退率が高い
- ＝初等教育を終えるまでに、約3割が公立を中途退学（学習達成度：低い）

（出典：国際協力機構

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/kaikaku/tekisei/k/pdfs/05gaiyo_myanmar1.pdf）

2. 背景調査

- 公立学校の問題点②
- 小→中学校への進学率の低さ

2	Net Enrollment Rate(NER)			
	Primary Level age (5-9)	74.70	84.61	9.91
	Middle School Level Age (10-13)	23.60	47.16	23.56
	High School Level Age (14-15)	10.10	30.01	19.91
No.	Indicator	1988	2010-11	Increase (%)
3	Completion rate by level (2009-10 AY)			
	Primary level	24.80	81.20	56.40
	Middle School level	47.10	71.70	24.6
	High school Level	29.32	30.83	1.51
4	Transition Rate (2009-10 AY)			
	Primary Level to Middle School level	45.60	80.18	34.58
	Middle School level to High School level	53.70	90.57	36.87
5	Teacher-Student Ratio	1:43	1:29	
6	Adult Literacy Rate (2011)	79.7	95.01	15.31

2. 背景調査

<原因>

- 世帯の貧困
- 少数民族地域の言語
- 教育の質の低さ

（出典：国際協力機構

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/kaikaku/tekisei/k/pdfs/05gaiyo_myanmar1.pdf）

- 公立学校がないor不十分な地域
- 子どもの労働力需要 など

2. 背景調査

<原因整理>

～アクセス～

- ① 所得
- ② 地理的アクセス
- ③ 言語

～質～

2. 背景調査

①所得

…公立学校の経済的負担の負担
(授業は無償だが、制服・教科書代など)

→貧困層にとって、公立学校の教育費はまかなえない

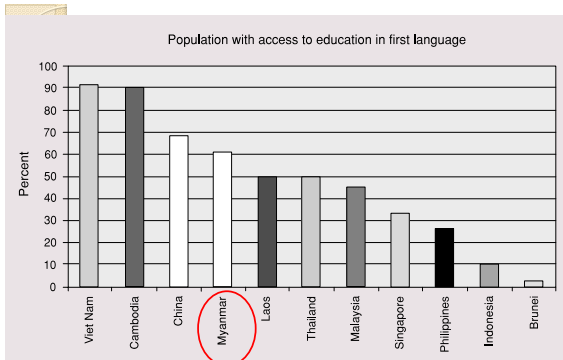
(出典：Education for Myanmar)

2. 背景調査

②民族(言語)

…ビルマ族と少数民族の主要言語の違いによる差

→公立学校における教育言語はビルマ語のみ(or英語) = 学習への負担



Source: Walter (2004) [Cambodian, Lao and Thai situations estimated by the author on the basis of data from Chazée (1999), Grimes (2000), Kingsada (2003), National Statistical Centre (1997), Schliesinger (2000, 2003), and Smalley (1994). Community based literacy programs for Minority Language Contexts in Asia

2. 背景調査

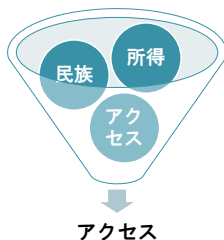
③地理的アクセス

…十分な数の公立学校が普及していない
→遠い地域の学校に行く必要性

(出典：Education for Myanmar)

2. 背景調査

• アクセス阻害要因まとめ



2. 背景調査

• ミャンマーの公立教育の質的な課題

- 暗記重視
- 先生と生徒の比率
- 教材の不足
- 教師の訓練

(参考文献：Education for Myanmar)

問題意識・リサーチテーマ

- アクセス・質の面で、公立教育の限界
 - 政府の教育への投資が不十分
- ↓
- 「公立（政府）」というアクター以外で、ミャンマーの教育状況を改善できるアクターは存在するのか

2. 背景調査 ～ノンフォーマル教育

- ノンフォーマル教育
- 僧院学校
- Community Learning Center

2. 背景調査～僧院学校

- 僧院学校
- 仏教国ミャンマーで各地域の中心となっている僧院にて、伝統的に教育を施す役割を担っている。
- 現在はセーフティーネットとしても機能。

(出典：“A patch for the National education system” Jasmin Lorch)

2. 背景調査

- 僧院学校
- **特に、貧困層が対象**
- 学費として、教師への授業料を払う。本などは支給される
(公立学校に比べ経済的負担が少ない)

2. 背景調査

- 僧院学校
- (教育+) 食事や住居の提供
- 社会適応能力をつけさせる教育
- 生徒の家族のサポートもするため、保護者の理解を得られている。

⇒ **貧困層の生活を支える存在**

2. 背景調査

- **僧院学校の多様化**
- [90s] 教育機関として国家に認定される
- 政府カリキュラムを導入し、「フォーマル化」した僧院学校も
- 僧院学校内でも財政・教育水準に差

(出典：“A patch for the national education system” Jasmin Lorch)

2. 背景調査

- 僧院学校の特徴
- 貧困層の教育機関として、伝統的に実績あり
- 教育+食事・住居のサポートなど
- 公的カリキュラムを導入し、教育水準が公立学校に近づきつつあるものも

2. 背景調査～CLC

- Community Learning Center
- 役割：学校に通えなくなった人、落第した人、進学が困難な人を対象に教育を受ける機会を作る。
- **運営主体：各コミュニティ**
- 都市部にも農村部にも存在

(出典：“Myanmar the Community Learning Center Experience” UNESCO)

2. 背景調査

- 教育内容：**読み書き、職業訓練**など
- 具体的には…
- 成人を含めた、未就学者・中退者への読み書き訓練
- 収入増のための技術訓練

No	Regions/state	CLCs
1	Kachin	44
2	Kayah	4
3	Kayin	20
4	Chin	43
5	Sagaing	518
6	Tanintharyi	165
7	Bago	371
8	Magwe	688
9	Mandalay	216
10	Mon	99
11	Rakhine	27
12	Yangon	7
13	Shan	212
14	Ayeyarwaddy	328
total		2742

Education All : Access to and Quality of Education in Myanmar 2012

2. 背景調査

- 教材：MERBによって作られたもの
- 運営・教師：地元の**ボランティア**
- …MERB・UNDP・UNESCOから派遣された人材によってトレーニング

3. リサーチテーマ

- ミャンマー公立教育の限界
～「アクセス」と「質」の面から
↓
- ノンフォーマル教育による補完

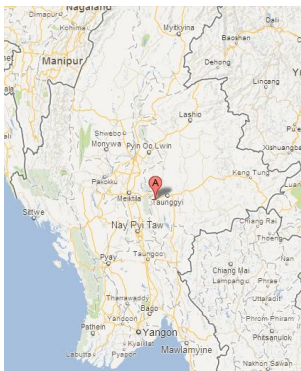
3. リサーチテーマ

<仮説>

- 「**ミャンマーの公立学校の問題点は、ノンフォーマル教育の特徴によって、カバーしうる**」
- **どの要素がカバーできる／できないか**

4. 現地訪問

2月26日	佐々木Yangon到着（斎藤は25日着）
2月27日	Yangon→Aungban（バス内泊）
2月28日	Aungban早朝着 Government Education Center Primary School (in Kalaw) Myo Ma monastery school (in Kalaw)
3月1日	Mieka No.20 Primary School (near Kalaw) Mai Kho monastery school (near Kalaw) Kan Bawze Private School (in Aungban) Htoo Chun Boarding School (in Aungban) Aungban Youth Development Library
3月2日	Kan Baw Za Youth Library & Reading Club (in Taunggyi)
3月3日	HEHO→Yangon
3月4日	Ms. Khin San Aye Myomayama School (in Yangon) MESO正田信子様 佐々木Yangon出発（斎藤は7日まで滞在）



4. 現地訪問

<小学校関連>

- Government Education Center Primary School (in Kalaw)
- Mieka No.20 Primary School (near Kalaw)
- Ms. Khin San Aye

<僧院学校>

- Myo Ma monastery school (in Kalaw)
- Mai Kho monastery school (near Kalaw)
- Myomayama School (in Yangon)

<私立学校>

- Kan Bawze Private School (in Aungban)
- Htoo Chun Boarding School (in Aungban)
- Community School
- Aungban Youth Development Library
- Kan Baw Za Youth Library & Reading Club (in Taunggyi)

<NGO>

- MESO正田信子様

4. 現地訪問～公立学校

- Kalaw 市内
- 授業料：1～5年生タダ
- 教科書のみ負担：現在安くなった
- Kalaw では、徒歩10分圏内で通学一方で、通学に5～7マイル必要な地域もあると聞く
- 教育言語はビルマ語のみ

4. 現地訪問

- Mieka No.20 Primary School near Kalaw
- 職業は大抵農家（所得は高くない）
- 村に僧院学校はない
- ここは町から近く生活水準が高いから、中退はない。中学にも全員進学。
- 中高は徒歩4マイルの地域（徒歩）
- 教師の訓練、教師不足
- 教材はUNDPらから支給（不足）

4. 現地訪問

- Mieka No.20 Primary School near Kalaw
- 親（と子供）の希望で、進学するかどうかわかる
- 親の学歴と村の状況（町から近いか等）が、子どもの進学に大きく影響する
- 公立学校と僧院学校では、カリキュラム・教育の質は同じ（公立は毎日通学でき、僧院は泊まり込み+食事つき）

4. 現地訪問

- Khin San Aye Yangon 元教師
- 教師・教師養成校で務めていた
- “Talks & Chalks Education” は問題点が指摘されている cf.) Child Center Approach
- 教師の給料は、家族を養う上で不十分（副収入が必要）
- 職業訓練が必要
- カレン語の地域に赴任経験。ビルマ語での教育は、低学年では問題ないが、高学年になるにつれ難しい

4. 現地訪問

<公立学校のまとめ>

- 経済的負担：以前より少なくなり、多くの家庭で賄える範囲になった
- 地理的アクセス：多くの地域で中高がなく、小学校も不足している地域あり
- 言語：ビルマ語のみ。特に問題視されていないが、高学年で障害になる
- 教育の質：教師は公的訓練を受けている。教師・教材の不足。
- 教師の給料が不十分

4. 現地訪問

<公立学校のまとめ>

- 村の教育状況は、大きめの街からの距離などに影響される
- 村ごとで、状況は個別に違う（所得・地理的アクセス）

4. 現地訪問～僧院学校

- Myo Ma monastery Kalaw 市内
- 試験を受けに、僧院学校に泊まり込みで来ている。今日は試験最終日で、村に帰るのが嬉しいそう。

4. 現地訪問

- Myo Ma monastery Kalaw 市内
- 子ども：Kalaw周辺地域（車で3時間くらい）に住んでいる
- 村には、1～8年生の学校しかない
- 兄弟の全ての子が就学できるわけではない。
- 子どもたちの家の職業は大概農家

4. 現地訪問

- Myo Ma monastery Kalaw 市内
- 教師：全ての教師は公的訓練を受けている（本人は大卒）
- 教師の給料は低め（45000-90000K）
- JICAが3年前くらいに来て、Child Center Approachを導入
- 僧院学校の3タイプ
 - ①衣食住つき（僧侶が教師・寄付）
 - ②政府のカリキュラム
 - ③場所だけ提供

4. 現地訪問

- Mai Kho Monastery School near Kalaw
- 11年生のみ（Pindaya, Nyaung Shwe, Shwe Nyaungなどから来ている）
- 教師：6人（私立学校の先生などが、休日にボランティア。能力高い）
- 宿舎つき・食事などは寄付で
- カリキュラムは全て統一。
- 教育はビルマ語で。

4. 現地訪問

- Mai Kho Monastery School near Kalaw
- 僧院学校で勉強しているのは、低所得のため
- 親が農家で、仕事が忙しく学費を賄えなかったため、小学校～高校まで全て僧院学校

4. 現地訪問

- Pinmayo Monastery School at Kalaw
- 10教師（ボランティア3人、開発省の雇われ）
- 307生徒（徒歩圏内に住む、孤児も含め97人住み込み）
- 親の職業は多様
- UNDPやUNESCOから寄付を受けているが、十分ではない
- Child Center Approach は良いけど、教材が余計に必要なのでコストがかかる

4. 現地訪問

- Myoma Yama School Yangon市内
- 高学歴のボランティア教師・僧侶がサポート
- 英語・日本語・コンピューター
- 日本語を教えるための、日本人不足（人材派遣求む）

4. 現地訪問

- <僧院学校のまとめ>
- 僧院学校は、食事・住居の提供つきの場所提供型も、低所得層の教育には効果的
 - 僧院のサポートと、高学歴のボランティア教師
 - 政府カリキュラムの採用

4. 現地訪問

<僧院学校のまとめ>

- 所得：○
- 地理的アクセス：○
- 言語：○
- 質：公立教育と同等

4. 現地訪問

～Community Learning Center

- Community Learning Center はない？
- 文献ではKalaw, Taunggyi にあるはずだが、誰も聞いたことがない
(実態・知名度があるのか？)
(より広域を指している？)
- 政府が同類のものを作っていたが、運営が上手くいかず立ち消えた

4. 現地訪問

～【Community Library】

- Community Library
- @Aungban/Taunggyi
- 地元の有志が、特に貧困層を対象として、図書館をはじめとした活動内容は多岐にわたる
- 自分のお金と、街の人の寄付で成り立っている
- 現在、シャン州をはじめとして拡大中

4. 現地訪問

- Aungban Youth Development Library
- 私立学校で働くオーナーが、有志と自分のお金で2011年に立ち上げた
- 夏、生徒の学校がないときに、英語・コンピューター・美術を教えている
- 無償で、低所得層を中心に900人くらい来ている
- 本とパソコンは、自分のものと、Aungbanの人々から寄付されたもの

4. 現地訪問

- Aungban Youth Development Library
- 無償という点では、僧院学校と似ているが、僧侶は英語やコンピューターは無理
- 現在は職業機会“Job Opportunity”に直結するわけではないが、今ヤンゴンのNGOとコンタクト中で、NGOと協力して活動を拡大しようと考えている

4. 現地訪問

- Kan Bawza Youth Library & Reading Club
- <活動>
- 図書館
 - 英語・コンピューター
 - 環境問題啓発
 - 有機農業推進
 - Capacity Building

4. 現地訪問

- Kan Bawza Youth Library & Reading Club
- 政治家や地域の活動家たちに働きかける。また、UNDP・世銀など国際機関や各国のドナー・政府関係者も会いに来る。各国のシンポジウムに参加し、発信する
- ミャンマー内のネットワークを利用し、ワークショップを開く機会をつくる

4. 現地訪問

<Community Libraryのまとめ>

- 地元の有志が、自分のお金と寄付で、図書館や英語教育などを行う。
- 所得：○
- 地理的アクセス：○（地域密着型）
（但し存在する地域は現在限られている）
- 言語：○
- 質：公立教育の質的欠点を補うが、基礎教育そのものを行っていない

5. 考察

- 背景調査、仮説、現地訪問でわかったことを踏まえて、一定の結論を出す
- 今回のリサーチはどのような示唆を含んでいるのか、も示したい

5. 考察～公立学校

<公立学校の限界まとめ>

- 経済的負担：以前より少なくなり、多くの家庭で賄える範囲になった
- 地理的アクセス：多くの地域で
- 言語：ビルマ語のみ。特に問題視されていないが、高学年で障害になる
- 教育の質：教師は公的訓練を受けている。教師・教材の不足。
- 教師の給料が不十分

5. 考察～僧院学校

<僧院学校のまとめ>

- 僧院学校は、食事・住居の提供つきの場所提供型も、低所得層の教育には効果的
- 僧院のサポートと、高学歴のボランティア教師
- 政府カリキュラムの採用

5. 考察

<僧院学校のまとめ>

- 所得：○
- 地理的アクセス：○
- 言語：○
- 質：公立教育と同等

5. 考察～Community Library

<Community Libraryのまとめ>

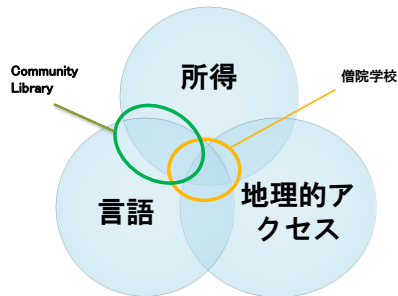
- 地元の有志が、自分のお金と寄付で、図書館や英語教育などを行う。
 - 無償
 - 地域密着型
- (但し存在する地域は現在限られている)
- 言語はビルマ語だが、ノンフォーマルなので現地語に合わせられる
 - 質：公立教育の質的欠点を補うが、基礎教育そのものを行っていない

5. 考察

<Community Libraryのまとめ>

- 所得：○
- 地理的アクセス：○～△
(中核人材のいる一部の地域に限定)
- 言語：○
- 質：公立学校の質の補填。基礎教育普及ではない。職業訓練の可能性もあり

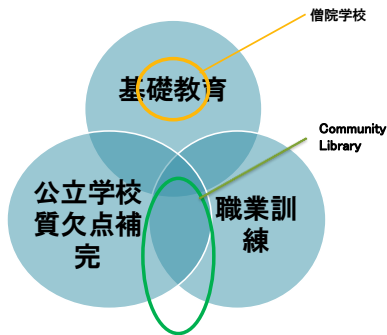
5. 考察（全体）～アクセス



5. 考察（全体）～アクセス

- 「アクセス」は、僧院学校で大概カバーできる
- 公立学校を中退しても、僧院学校で政府カリキュラムに則った授業を受けられる
- 問題は、親が教育のメリットについて理解しているかどうかではないか

5. 考察（全体）～質



5. 考察（全体）～質

- 基礎教育（読み書き算数など初修）は僧院学校でカバーできる
- 本を読む機会、コンピューターなど、新たな学習内容を提供できるのが、Community Library
- 職業訓練は、Community Libraryではまだ不十分（人材・資金不足）

5. 考察（全体）～示唆

- 教育のメリットに関する理解
Cf.) “Poor Economics”
- 公立学校や僧院学校ではカバーできない、職業訓練や新しい教育内容など、Community Libraryや一部の僧院学校に期待
(ドナーの支援も集めるべき存在では?)
Cf.) 高収入の職のパイ/言語教育

6. 今後の課題

- 地域ごとのローカルな特性。地域ごとの状況の違いに、どのように教育は対応していけるか
- “Job Opportunity” につながる職業訓練の提供についての考察
- 「アクセス」と「質」の関係性をより体系的に調べたい

7. 参考文献

- Monique Skidmore and Trevor Wilson (2008) “Dictatorship, Disorder and Decline in Myanmar”, The Australian National University
- Han Tin “Myanmar Education: challenges, prospects and options”
- Marie Lall, “Evolving Education in Myanmar: the interplay of state, business and the community”
- “Education for All: Access to and Quality of Education in Myanmar 2012”
- “Child centered learning and teaching approaches in Myanmar”
- “Myanmar’s Civil Society – a Patch for the National Education System? The Emergence of Civil Society in Areas of State Weakness”

ご清聴ありがとうございました。

● **質疑応答**
(～7:45)